

市民活動団体に対するインタビュー結果

ヒアリング団体

A団体：地域との連携実績がないNPO法人

B団体：地域との連携実績があるNPO法人

C団体：地域コミュニティ組織に加盟しているNPO法人

(1) 地域コミュニティのイメージ

①地域コミュニティ組織（町内公民館・自治会・まちづくり協議会）の活動内容をご存じですか？

②個人として地域コミュニティ組織でどのような活動をされていますか？

全団体とも地域コミュニティ組織の活動について把握されており、すでに組織として地域コミュニティ組織に加盟（C団体）、講習会等で連携した活動（B団体）が行われている。また、個人でも地域コミュニティ組織において町内公民館館長や子ども会の会長などの経験あり。

③地域コミュニティ組織と共通の課題はありますか？

参加者の掘り起こし

A団体

施設に来ていない子どもの掘り起こし。育児放棄や虐待等の様々な理由により、施設等に来ない子ども達も多い（親が外に出したがる）。そのため、その子たちの親に対する啓発が必要。地域の民生委員や児童委員には、そのような世帯への訪問（声掛け）をお願いしている。新しい活動をして、親の仕事の都合や子どもの塾・習い事等により、施設に集まる子どもは限られる状況（多くは、子どもではなく、親の都合で地域に出てこれない）。

(2) どんな形だったらかわりたいか？

①地域コミュニティ組織（町内公民館・自治会・まちづくり協議会）と連携は可能ですか？

②具体的にどのような連携が可能ですか？

A団体

活動を依頼（委託）もらえれば、連携は可能。企画段階からの参加もできると考える。現在4名で運営しており、子ども達が学校にいる日中は、時間的な余裕

もある。ワークショップについても、年齢に合わせたものを実施することも出来ると思う。コロナ禍前に、三池光竹の取組みに関して連携の話があったものの、その後コロナ禍になり立ち消えになった。

B団体

備災力アップ（平時から災害に備えること）のための講習等

C団体

「徘徊高齢者保護」が活動の軸足ではあるが、活動の輪・地域づくりの輪は広がっている。現在でも、市内外からの団体等の依頼を受けて、我々の取組みに係る講演をする機会を度々いただいている。

③地域との連携をする際に行政や地域組織へ求めるものは？

B団体

- ・活動の内容が市民の目に届く必要があるから、市の広報おおむた等の協力や市の後援等も必要
- ・地域の代表者、市の関係する課で事前ミーティングの場が必要
- ・情報発信について
高齢の方へSNS等の研修を行うより、当たり前でSNSを使いこなしている学生に、モラルを教えるほうが早いと思う。
- ・地域活動について
市民アンケートにあるように、今の地域活動のやり方では、若い人が参加しないと思っている。メリットがないし、面白さがないから参加しない。若い世代へ興味ある活動を聞く必要がある。

（3）その他（地域コミュニティ活動等に関する意見）

B団体

①地域組織等の役員に対する報酬について

きちんとした報酬を払う。市民活動（民生員活動を大きく捉えての発言）を熱心にするということは、そういうことが全部土台にあってこそだし、きれい事だけじゃない。まちづくり協議会や町内公民館・自治会の役員手当も形ばかりの手当とするのではなく、責任や内容に応じた手当に見直していかないと成り立たない。

C団体

②地域活動について

- ・身近なものをテーマにして、皆で解決するよう取組むことが、魅力ある地域づくりには必要と考える。
- ・子ども達の自由な発想を汲み上げて、地域活動の中に取り込んでいくことも重要である。
- ・「一人の百歩」ではなく、「百人の1歩」の取組み（地域づくりの実践）を心掛けている。
- ・活動に際しては100%準備するのではなく、80%の準備があれば進めている。残り20%は、参加者に協力をお願いしながら、取組みを進めるように仕掛けている。これによって、参加者が次回の活動に繋がっていく。

③被災地支援を通しての意見

B団体

日頃からまとまっている地域は、それが当たり前になり、災害が起きても助け合う。逆も然り。